**「シュリー・ラーマクリシュナ**

**師の中の大師」**

**2023年3月19日**

**シュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀会　午後の部**

**スワーミー・メーダサーナンダによる講話**

**於・逗子協会**

今日の講義のテーマは、「シュリー・ラーマクリシュナ　―　師の中の大師」です。ご存じのように、家住者も僧侶も霊的な話の講義をしますが、霊的な話に関しては、僧侶の方が家住者よりも優れていると思います。僧侶は神のために、俗世間や家庭を放棄しているからです。僧侶は心の全てで神に集中しようとします。家住者には家族がいるので、宗教を説くのは少し難しいです。しかし、宗教の師として一般的な僧侶よりもはるかに偉大なのは、神を悟った聖者たちです。さらに最も偉大な師は、もちろんアヴァターラ、神の化身です。

この概念は日本では一般的に理解されていませんが、西洋やインドの人々はこのことをよく知っています。インドで神の化身は「アヴァターラ」として知られており、西洋では「神の子」と呼ばれています。平安、喜び、自由、真実の悟りを私たちにもたらすために、神が降誕なさった存在がアヴァターラです。言い換えれば、化身の中には、神性さの最大のあらわれがあります。神の化身の例としては、シュリー・クリシュナ、仏陀、主イエスが挙げられます。

現代、何百万人もの人々がシュリー・ラーマクリシュナを神の化身とみなしています。いつの時代にもその時代特有の問題がありますが、神の化身はその時代の問題を解決するために降誕します。スワーミー・サーラダーナンダ作曲の賛歌の中の2行がそのことをあらわしています。

サルヴァ　ダルマ　スタパカストゥワン　サルヴァ　ダルマ　スワルパカハ

アチャリャナン　マハーチャリャ　ラーマクリシュナヤ　テ　ナマハ

ここでサーラダーナンダジーはシュリー・ラーマクリシュナのことをアチャリャナン・マハーチャリヤ（師の中の大師）と呼んでいます。では、霊的な師としてのシュリー・ラーマクリシュナの特徴とは何でしょうか？　霊性の師としての彼の最大の資質は、信者に平安、喜び、自由、真理の悟りの道を示したことです。彼の霊性には混じり気はなく、純粋で本物の霊性でした。超能力をあらわすようなこともありませんでした。

シュリー・ラーマクリシュナは何の見返りも期待もせず、弟子たち一人ひとりを非常に愛しました。さらに、弟子たちのことを非常に気にかけていたので、弟子たちはそれぞれが、シュリー・ラーマクリシュナは自分のことを最も愛してくださっている、と感じていました。彼が亡くなったあと、ボラノゴルに滞在していた出家弟子たちはそのことで口論したこともあります。ある者が「シュリー・ラーマクリシュナは私のことを一番愛していた」と言うと、もう一人が「そうではない、私のことを一番愛していたよ」と言い返しました。何と面白いことでしょう。これこそが普遍的な愛の結果なのです。シュリー・ラーマクリシュナは弟子各々の性格を鋭く観察しました。皆それぞれ違っていました。彼はそれぞれの心の中を、まるでガラスケースの中の物を見るように、はっきりと見ることができました。シュリー・ラーマクリシュナは弟子たちの心を簡単に読み取ることができたので、個々の性質に応じた霊的な教えを与えました。ある人にはヴェーダーンタを実践するように指示し、それが向かない人には二元性［バクティの道］の指示を与えました。また、ある人には、ギャーナ・ミシュラ・バクティ（智識と信仰を合わせる道）を指示しました。

シュリー・ラーマクリシュナは子供たちの消化力に応じて魚を調理する母親のようでした。彼は一般的な医者とは違っていました。私たちは病気になると、医者にどう辛いかを説明します。医者は耳をかたむけてくれることもありますが、聞きもせずに処方箋を書き始めていることもあります。また、患者の具合がよくなっているか、処方した薬を服用しているか、などを調べることさえしないこともあります。そのような不注意な医者は最悪の医者です。もう一つのタイプの医者は、患者が処方したとおりに薬を服用しているかどうかを尋ね、もし適切に服用していなければ「薬を飲めばよくなるよ」と優しく言います。三番目の最良の医者は、患者がすすんで薬を服用しなければ、無理やり患者に薬を飲ませます。それが最高の医者です。シュリー・ラーマクリシュナは三番目のタイプの医者です。彼は弟子が指示に従っているかどうかを観ました。もし弟子が指示に従っていなければ、優しく叱ることもあったし、厳しく叱ることもありました。もう一つの重要な点は、シュリー・ラーマクリシュナはご自身が肉体を保持している間だけでなく、肉体を去って精妙な体になった後も弟子を観察し、護り、導いている、ということです。それがシュリー・ラーマクリシュナの特別なことです。

ここで、シュリー・ラーマクリシュナの教えについて話します。彼は、「優しすぎることも、暴力的過ぎることもよくない」と言いました。例えば、バクティだけを実践している偏った信者がいれば、「おまえはどうしてそんなに偏っているのだい？」と言い、そのような信者に対しては、バクティだけでなくギャーナも実践するようにアドバイスをしました。シュリー・ラーマクリシュナは調和の伝道者でしたので、人々が人生において調和した状態になるようにとアドバイスをしました。彼は「どうして一種類の料理しか食べないのだい？　もっと他の食べ物も味わいなさい」と言いました。しかし同時に、それぞれの能力には差があるので、その弟子の能力を注意深く見極めました。

自分の努力だけでブラフマンを悟ることができると思っている弟子がいると、シュリー・ラーマクリシュナは「いや、お前の努力だけで神を悟ることは不可能だ。神の恩寵も必要なのだよ」と言いました。自己努力と神の恩寵という二つのことは両方不可欠なのです。

シュリー・ラーマクリシュナの有名な声明の一つに、バクタ　ハビ、トゥー　ボーカー　ハビ　ケーナ？　「神の信者とは『お人好しのバカ者』という意味ではない」、というものがあります。信者に対しては「いい加減はだめ。整っていなさい」、と期待しました。整っているというのは、家具などが整理整頓されている、ということだけでなく、日常生活がきちんと整っている、ということです。感情と心の奴隷になっている人は整っていません。そのような人は衝動的で、感情に流されて生きています。

次にシュリー・ラーマクリシュナは、信者が注意深くあることを願いました。お釈迦様はアーナンダに、「見張っていなさい」と言いました。それは他者があなたを傷つけないようにするためです。なぜなら、家住者は自己防衛しなければならないからです。子供、老人、病人、貧しい人びと、僧侶など多くの人々は家住者に依存しているので、家住者の収入は自分のためだけのものではありません。ですので、家住者を他者が欺くことができないように、自分自身を守る必要があるのです。ある時、シュリー・ラーマクリシュナは一人の弟子に市場でフライパンを買ってくるように頼みました。弟子は市場に行って店の人に「上等のフライパンを下さい」と言いました。店の人はフライパンをその弟子に渡しました。弟子がそれをシュリー・ラーマクリシュナに見せると、亀裂が入っているのが見つかりました。シュリー・ラーマクリシュナは、「信者とは、だまされやすいお人好しのことでも馬鹿者のことでもないのだよ」と言いました。この教えは特に買い物をする人に役立ちます。

シュリー・ラーマクリシュナは買い物のために、次のようなさらに詳しい実践的な提案をなさいました：

・      買い物をするときは、値段を調べ、店をはしごして、一番買い得なものを探すこと。品質が良いことも確認せよ。

・      「上等なものを下さい」と店員任せにしてはいけない。自分で商品を徹底的にチェックすること。

・      値引きがされている商品は、値引きの理由を尋ねること。

・      たくさん買う場合、無料でおまけをくれるなら、それをもらうことを忘れてはならない。

このことから、シュリー・ラーマクリシュナは意のままにサマーディに没入することできる一方で、一般的な次元に降りて来た時は、平均的な人びとよりも注意深かったということが分かります。シュリー・ラーマクリシュナは日常生活をどのように送ればいいかをよくご存じでした。この注意深さは信者にとっても大事なことです。

それから、私たちは聡明であるべきです。何をして何をすべきでないか、誰と交際して誰と交際しないかを識別してください。時には、ある種の人々からは安全な距離を保たなければなりません。また、特に、スマートフォンをどれだけ使うかについて識別すべきです。なぜなら、現在の生活はスマートフォンを使わざるを得ないので、スマートフォンが逆効果にならないように気をつけるべきだからです。

次に、シュリー・ラーマクリシュナがホーリー・マザーに与えた助言があるのですが、それは私たち全員にも関係があります。

ヤカナ　イェーマナ、タカナ　テーマナ、イェカーネー　イェーマナ、セーカーネー テーマナ、ヤーケー・イェーマナ、ターケー　テーマナ

「人物、場所、状況に応じて、臨機応変に行動してください。しかし、原理、原則はしっかりと持っていてください」。つまり鋼（はがね）のように、曲げることはできても壊れないようになるべきです。柔軟性と剛性の両方を併せ持ってください。

人は他者を助けるために、自分の収入の一部を使うべきです。ヤーラ　アーチェー　マーポー　ヤーラ　ネーイ　セージャポー、これは、「お金を持っている人は他者をたすけるために分かち合うべきであり、貧しい人はジャパのような霊的実践をもっとすべきである」という意味です。

ここでシュリー・ラーマクリシュナが肉体を去られた後にどのように弟子たちに教えたかを示す二つの例を挙げます。インドがイギリスの統治下にあった間、多くのキリスト教宣教師がキリスト教を説くためにインドにやってきました。キリスト教の教えを説くことには何の問題もありませんが、多くの場合、彼らはヒンドゥ教を非難しました。通常、宣教師たちは、寺院の前など、多くの人々が集まる場所で説教をし、そこでヒンドゥ教の神々や女神を批判しました。しかし、宣教師たちは支配する側の人種だったので、人々は怖くて抗議ができませんでした。

ある時、シュリー・ラーマクリシュナの出家弟子であるスワーミー・プレーマーナンダがプリに行ったとき、キリスト教の宣教師がジャガンナート寺院のすぐ前で説教しているのに出くわしました。いつものように、宣教師は主ジャガンナートを口汚くののしっていました。スワーミー・プレーマーナンダはそれに耐えられませんでした。主ジャガンナートはヴィシュヌの別の姿です。プレーマーナンダジーはその宣教師を止めることができませんでしたが、大声で「ハリ　ボール！　ハリ　ボール！」と唱え始めました。そこに集まっていた人々はほとんどがヒンズー教徒だったので、それに加わり、大声で「ハリ　ボール！　ハリ　ボール！」と唱え始めました。キリスト教の説教者の演説はこのように中断され、彼はすぐにその場所を去らざるを得ませんでした。その時、そこに集まった人々は、主ジャガンナートの寺院の前で主ジャガンナートを罵ることを止めたプレーマーナンダジーのタイムリーな行動に、とても感謝しました。プレーマーナンダジーもかなり満足でした。

その夜、シュリー・ラーマクリシュナがスワーミー・プレーマーナンダの夢にあらわれて、「説教者は私のことを説いていたのに、なぜ止めたのだ？［シュリー・ラーマクリシュナは自身を主イエスと一体化しておられた］　明日、説教者を見つけて謝りなさい」と叱りました。スワーミー・プレーマーナンダは、説教者の住居を苦労して見つけ、彼に謝罪しました。

別の例：シュリー・ラーマクリシュナは常に「肉欲と金」を放棄することを強調なさいました。そしてご自身は肉欲と金の放棄をしっかりとしておられました。彼の体は金属の感触にさえ耐えられないことは何度も実証されました。治療のためにシュリー・ラーマクリシュナを訪れた有名な医師マヘンドラ・ラル・サルカール博士は、ある時コインを持ってきてシュリー・ラーマクリシュナの手のひらに置いたところ、彼の手のひらが麻痺した人の手のひらのように曲がってしまいました。スワーミージーも同じようなテストをしたことがあります。ある日、シュリー・ラーマクリシュナが自部屋から出ているときに、スワーミージーはマットレスの下にコインを置きました。シュリー・ラーマクリシュナが戻ってきて寝椅子に座ろうとすると、電気ショックのようなものを受け、寝椅子に触れることもできませんでした。その後に寝椅子のマットレスの下にコインが置かれていることが分かりました。

シュリー・ラーマクリシュナが亡くなってからずっと後のことです。ベルル・マトが設立され、スワーミージーもそこに滞在しているときに、ある出来事が起こりました。聖堂には、シュリー・ラーマクリシュナを礼拝するための礼拝器具がありました。信者が礼拝用の銀製の道具を贈りました。ある夜、シュリー・ラーマクリシュナがスワーミージーの夢にあらわれ、「私は金や銀に触れることができなかったのに、なぜ銀の道具が礼拝に使うのだ？　お前がここにいるというのに、どうしてそんなことが起こったのだ？」と尋ねました。真夜中でしたが、スワーミージーはすぐにお供に聖堂を開けさせて、銀の道具を見つけて、それらを捨てました。

これらの話は、シュリー・ラーマクリシュナが出家、在家両方にどのように教えたかを示すものです。シュリー・ラーマクリシュナの教えは、ご存命の間だけでなく、亡くなった後も続きました。彼の教えはすべてが非常に偉大です。ですので、シュリー・ラーマクリシュナは師の中の大師、と呼ばれているのです。